

新火葬場建設地（案）市民説明会 開催記録

○日時 令和3年3月11日 午後7時～午後8時40分

○場所 丹生川文化ホール

○参加人数 42名

○高山市

市長 國島 芳明

副市長 西倉 良介

市民保健部

市民保健部長 橋本 宏 火葬場建設推進室長 尾前 隆治

火葬場建設推進室担当監 大川 誠 火葬場建設推進室職員 義基 現徳

丹生川支所

丹生川支所長 清水 信行

○質疑応答の概要

参加者： 丹生川町北方の住民である。町内会の会合で説明したいとの説明だったが、新型コロナウイルス感染症で総会もできない状況にあり、どうなのかと思った。

市職員： 町内会長、役員、地権者への説明の機会を設け、話していきたい。皆さんに寄っていただくやり方に限らず、説明の機会を設けたい。

参加者： 丹生川町大萱の住民である。建設地（案）の土地は嵩上げがされているが、所有者との話し合いでは、農地だから大丈夫という結論で認めた。火葬場が建つならば、下方へ土砂が流入しないかが心配される。

この件は、市から検討委員会に諮問があつて答申される流れで、その間に調査がある。大萱の誰も知らずに調査がされ、上位の候補地になったことで、住民感情がどうなのかということもある。

市職員： 土砂の流入について、まず地質調査などを行い、建物の基礎などを施工することになり、心配のない形で整備していきたい。

候補地選考は、絞り込みの段階、段階で、検討委員会から答申を受け、市民にお知らせしながら進めてきた。周知が十分でなかったならば申し訳なかった。

参加者： 丹生川町北方の住民である。資料エについて、現在は「(4)建設地の決定」の「地元合意形成」の段階か。

市職員： 「建設地（案）の決定」の「・市民意見」とあるのが、この市民説明会であ

る。

参加者： 地元合意形成がどういう形をとるかわからないが、町内会長などがオーケーを出すのか。反対意見もあった中、いろいろな意見も要望もあると思うが、地元と市が膝を突き合わせて話せる場を設けるか。

市職員： 大萱と北方の町内会の皆さんとの話し合いの場を持ちたい。

参加者： では、その場でまた話させていただく。

参加者： 抽象的な表現でものごとが決まっている。**資料ウ**の6ページの【プロセス3】に、市規則による設置許可基準で建物が隣地から見通すことができないこととしているとあるが、隣地はどこを指すか。

市職員： 候補地の隣地であるが、住宅地や、公園などの施設から見えないことと捉えている。

参加者： 農地は除外か。

市職員： 農地は建設地（案）から見えるが、施設や住宅地からは見えないということで判断している。

参加者： 計画図に、見えるだろうという方向に植樹が描かれているのはどういう意味か。

市職員： **資料イ**の7、8ページの植樹は、周辺との調和、周辺への影響緩和を考えたとき、必要ではないかというもので、具体的な検討はこれからになる。

参加者： 検討委員会の部会に関する市の記録に、平成31年3月の部会の候補地視察までに、インフラ整備や造成や道路の線形や経費など、これまでイメージで進んできていることに具体的に対応できるようにとある。今の説明では具体的なことは計画の段階でという逃げである。

副市長： どの候補地のどの場所に施設を建て、どういう評価がされるか、はっきりしていないものについて、説明がつくようにとコメントしたと思う。それを踏まえ、お話をしたものが積み上がった。

参加者： これだけのものを建設するならば、準備をするべきと思う。

過去に建設地（案）で造成が行われたとき、家の前をダンプがかなり通過した。何ができるのか町内会に具体的な説明がなかったが、危惧している。

建設地（案）の調整池は、埋め立ての部分だけを対象に造ったと思う。農地、山林等から、雨が降ると水が流れる。雨がどれだけ流れ出るかという、流出係数は、農地や山林だと半分以下と思うが、建物や道路を建設すると倍になる。整備費がかさんでくる。

副市長： 建設地（案）に火葬場を建設する場合、地質や基盤などに関し、開発協議の基準を超えたものを目指したく、そのように積算した数値を計上している。

参加者： 建設及び維持管理コストに、想定されるものは組み込まなければならない。

建設地（案）ではアクセス道路の 820 メートルは 2 車線にすることになっている。この整備の 1 億 7 千万円により、土地はただだったが、たくさんの費用がかかる。

下水道は大萱の農業集落排水を使うか。

市職員： 大萱の農業集落排水に接続することを考えている。

参加者： 大萱の農業集落排水の最大許容人数は 270 人で、現在は 240 人ほど使っている。調整柵を作るということだが、下水道課と協議済みか。

市職員： 下水道課に相談し、大萱の農業集落排水は容量が大きくなり、一旦流量を調整する必要があるということで、その費用も見込んでいる。

参加者： 農業集落排水の末端の管路を大きくしなければならないか、現状でよいかの検討をしているか。

市職員： どれだけの管径が必要かの検討はできていない。

参加者： それも増額される。清見町候補地は、宅地を前提に開発されているので、すべてオーケーである。銭がかからない。建設地（案）は銭がまだかかる。コストの見極めが甘いと思う。

清見町候補地のアクセス道路は、中部縦貫自動車道の高山西インターチェンジから 2 キロメートルで、建設地（案）では、丹生川インターチェンジから 4.5 キロメートルであり、清見町候補地のほうが最寄りのインターチェンジから 2.5 キロメートルも短い。

清見町候補地は八日町方面からアクセスする。あの道は雪が多く、なにかあると困るので、通行止めにしてある。その道路の除雪費が 1 億 1 千 9 百万円、10 年で 11 億円、100 年で百億円である。こんなにいいかげんなデータでも清見町候補地は建設地（案）より少し安く、除雪費の 1 億 2 千万円を引くと 2 億円安い。コストよりも環境と言うが、条件がほぼ一緒ならばコストである。

新年度の予算では財政調整基金から 13 億円を繰り入れ、借金を前年度の 60 パーセント増額するのに、お金がかかる土地を建設地（案）とするのはおかしい。

市議会・福祉文教委員会では近場にしようとし、断念したみたいである。11 月の議会報告によれば、明確な根拠を示せという宿題が市に出されたが、明確な根拠と思わない。

検討委員会の部会では、新宮町候補地にすると反対が多いのでやめたほうがよいが、建設地（案）や清見町候補地は暗くて寂しいので、町場に近いうところがよいという意見もある。こういったことが、総合的に、今の中に入れてあるか。

ここで区切り、今までのことに答えてもらいたい。コストをしっかりと答えてもらいたい。高ければよいというものではない。

市職員： 清見町候補地の八日町からのアクセスは、中部縦貫自動車道や国道 158 号からもあるが、市街地から入ってくることも考えたもので、その除雪も必要とした。1 億 1 千 9 百万円は 1 年分の概算でなく、50 年分である。

参加者： そうした説明がない。あの道を冬に行く人はいない。事業費について、21 億円と 6 億円の 27 億円*は全部使ってもよいという話か。

副市長： そのような話ではない。3 件の候補地を同じ目線でみて、必要なものを積算している。ご意見のように、今後、こういうケース、対応が出てきたといったことはありうる。市の財政計画のフレームの中で動ける状況にあると確認し、候補地を評価している。

参加者： 概算の段階でも安いところが優先する。

副市長： 同じものを選ぶ場合、安いものとする判断はある。それは一つの判断のしかたで、コストが枠に収まれば、それ以外の、清見町候補地では企業誘致でオファーがある状況も加味し、建設地（案）を選んだ。

参加者： 企業誘致について、市外から企業を誘致するということがあったが、既存のロボットセンター、宿舍、ソーラーパネルは同じ町内や飛騨地域内の事業者の事業である。企業誘致の話は、きたり、消えたりを 15 年やっている。清見町候補地を有効利用するならば火葬場を建設し、残った土地にソーラーパネルを建設してはどうか。

市長： ご意見としては承らせていただきたい。いろいろな条件を共通のベースで調べ、判断した経緯を説明した。あその場所のほうがよいという意見がそれぞれにあることは承知しており、意見は認識をさせていただきたい。

将来的な市の展望では、企業をあの場所に誘致したいという希望を持っているので、お話がある方々に対してもしっかりと対応していき、他のオファーも出てくるならばしっかりと受け止め、企業誘致として立地させていきたいという思いがあるので、現在の段階では、企業誘致としての場所と認知している。

参加者： 資料ウ・7 ページに、火葬場建設と企業誘致の両方の取り組みを両立させると書いてあり、いつ決断するか。

市長： 丹生川町大萱に火葬場を建設し、清見町牧ヶ洞は企業誘致として立地させたい。相手との交渉があり、いつまでと明言できないが、そのようなスタンスで向かっていきたい。

参加者： 市議会が言うように、明確な根拠のある説明がされないと理解できない。清見町候補地の用地取得費用は、1 平方メートル当たり 1 万円で計算した。ロボットセンターへ売ったときは 6 千円だった。なぜ 1 万円になっているか。

市職員： 企業誘致において分譲の単価として公表している単価である。

参加者： 地価が落ちているところに 1 万円で売ろうと思っているから、企業はこない。もっと安くしたらどうか。

参加者： 丹生川町北方の住民である。コロナ禍ではあるが、こういう会場を使い、地元説明会もできるのではないか。早急にそういう場を設けてもらいたい。地元でいろいろな意見、要望があると思うので、意見を吸い上げたうえで進めていただきたい。

副市長： ぜひそういうふうになりたい。地域の皆さんとどのようなやり方が可能かを検討し、早い時期にお話を聞きたい。

参加者： 丹生川町大萱の住民である。資料ウの5ページで、周辺環境を最優先にする中で考えると、丹生川町候補地あるいは清見町候補地という話と思う。どっちがよいかと考えると、コストで優れている清見町候補地が妥当とならないか。

資料ウ・7ページの【プロセス4】で、清見町候補地は企業立地候補地で、火葬場の候補地になりえないとなっている。周辺環境を優先的に考えたわけではなく、市の政策との関係から選ばれたと思った。

市職員： 資料ウの5ページで、①周辺環境等では丹生川町候補地と清見町候補地、②コストでは清見町候補地、③移動距離・時間では新宮町候補地と整理し、次の6ページで、どのポイントを重視するかと検討した結果、コスト差を重要視するよりも基本方針との整合性を優先すべきであること、移動時間の差が最大10分程度であり、受け入れられるということから、最も重視すべきポイントは周辺環境等とまず整理している。

次の7ページで、【プロセス4】として、周辺環境等の中であがっている丹生川町候補地と清見町候補地について、市民意見等のうち留意すべき事項と、市の政策等との関係を踏まえ、丹生川町候補地を建設地（案）としたものであり、コストと移動距離・時間から持ってきているわけではない。

参加者： 周辺環境等を優先したと読めなかった。企業立地候補地として市が確保している土地ならば、最初から候補地としてあがらないのではという疑問もあった。

参加者： 北方町内会の者である。資料ウの5ページの表を小学生に見せ、どの候補地がふさわしいかと質問すると、9割以上は清見町候補地と答え、先生は、そうですよねと言わざるをえない。

住宅から見えるところは駄目という条件が、市の意向としてあるならば、なぜ、清見町候補地と新宮町候補地がベスト3に残ったかという疑問があり、検討委員会は市の意向を聞いたのかと思ったり、仕事との折り合いをつけながら参加した委員を気の毒に思ったりする中、建設地（案）にしたいという意向は、理屈はわからないが、よくわかる。

丹生川町候補地を建設地（案）にしたことをわかりやすく、いろいろと語ってもらい、今後の説明会で話が噛み合わないことが起こりうると心配しているから、準備してもらいたい。

副市長： 3件の候補地の中でここがベストと見出せない中で、ポイントを絞りながら整理した経緯がある。資料ウの5ページの表だけを見ると、丸が一番多いのがどこかと評価をいえるかもしれないが、表では十分な表現ができない部分もあり、そうした

ところをお伝えしたい。

参加者： 検討委員会の第8回部会で、副市長は、清見町候補地が1位になった場合、その後に企業誘致が決定したときは、清見町候補地は除いて2位を繰り上げることもありうる」とコメントしている。この時点から建設地（案）ありきで進んできている。

副市長： 企業誘致の候補地が、火葬場の候補地にあがることはいかかなものかという話が、検討委員会であったと思う。ルールの中で土地を全部拾い、選考した経過の中、企業誘致のために造成した土地であることは優先すべきと考えを示した。

清見町候補地の評価が一番高い場合、企業誘致の話が持ち上がったとき、そうしたこともありうる」と話をしただけで、丹生川町候補地を建設地（案）とする前提ではなく、誤解しないように願います。

参加者： それとなく、検討委員会委員を洗脳したと思う。

以上

※ 第八次総合計画で想定される総事業費が約21億円であり、建物に係る工事費等を除いた経費である約6億円はこれに含まれる。（資料ウ・6ページ）